



あすチャレ! メッセンジャー

Challenge For Tomorrow

A close-up, low-angle shot of a person's lower leg and foot during a run. The person has a black, curved prosthetic leg. They are wearing a bright green and white athletic shoe with yellow laces. The background is a dark, wet asphalt road at sunset, with a bright orange and yellow sun low on the horizon, creating a strong lens flare and reflecting off the wet surface. The overall mood is one of determination and progress.

成長より進歩より、
まずは変化すること

固定観念は変化を妨げ、時に尊厳を脅かす。
新たな価値観に触れた時、人や社会は成長する。

メッセンジャーが語るのは、
パラアスリートとしての生き様、そして人間としてのリアル。

「逆境」「挑戦」「インスピレーション」「絆」
彼らだからこそ伝えられるメッセージがある。

Challenge for Tomorrow.

あすチャレ! メッセンジャー

あすチャレ! メッセンジャー

パラアスリート、パラスポーツ指導者の講師派遣プログラム

「パラスポーツの普及に尽力したい」「多様性のある社会にしていきたい」という想いのあるパラアスリート等を対象にスピーチトレーニングを実施、伝えるスキルを体得した講師を派遣しています。

①

スピーチトレーニング

マンツーマン形式で90分×8回のトレーニングを約3か月の期間をかけて実施。
ロジカルシンキングに基づいたメッセージの組み立てを中心に、プレゼンテーションテクニック等のスキルも向上。



トレーニングの様子

②

修了審査

リハーサルを経て、実際の講演（修了講演）を実施。既定の採点基準を満たした者を「あすチャレ! メッセンジャー」と認定。



認定証授与

③

講師派遣

認定されたメッセンジャーを、ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）社会を実現するための“伝道師”として全国各地に派遣。

※オンライン講演にも対応しています。



講演の様子

01 EVIDENCE 活動実績

2018年5月に講師派遣を開始してから、企業や学校、自治体から大きな反響があり、これまでの4年間で約4万5千人が聴講。

在籍講師【パラアスリート（現役・引退）、パラスポーツの指導者】（2021年11月末時点）



障がい種別

視覚 / 肢体不自由（車いすユーザー） / 肢体不自由（立位） / 聴覚 ※健常者の講師も在籍

総聴講者 / 開催回数

44,414人 / 212回（※2021年11月末時点）

講演依頼の目的

企業



- ▶ 社員一人一人の共生社会への意識向上
- ▶ 自社のダイバーシティ推進と社員の意識向上
- ▶ 障がい者雇用へ向けた理解促進、意識改革
- ▶ SDGsの達成に向けた取り組み

自治体



- ▶ 共生社会づくりに向けた「障がい者への理解促進」と「心のバリアフリー推進」
- ▶ 職員の様々な立場や考え方を理解する共感力の向上
- ▶ パラスポーツ普及に向けた認知度向上、意識向上

学校



- ▶ 「夢や目標を持つ大切さ」、「あきらめない心を持つ大切さ」の学習
- ▶ 共生社会、障がい者への理解促進
- ▶ パラアスリートを活用した持続可能な社会の創り手の育成

What's Speech Training?

「あすチャレ! メッセンジャー」のスピーチトレーニングは、「聴衆を惹きこむプレゼンテーション」をコンセプトに、アクセンチュア株式会社とパラサポが共同開発したプログラムです。トレーニングでは、アクセンチュア社員がプロボノで約3ヶ月かけて講師育成のお手伝いをし、ロジカルシンキングに基づいたメッセージの組み立てを中心に、プレゼンテーションの基礎やテクニックを習得しています。

POINT

- ▶ 講師のトレーニングはマンツーマン形式で90分×8回
- ▶ 講師毎に本人のエピソードをベースにした講演テーマを厳選
- ▶ リハーサル、修了講演を経て「あすチャレ! メッセンジャー」の講師に認定

「あすチャレ! メッセンジャー GOLD」講師

自身のパラスポーツ経験だけでなく「ダイバーシティ&インクルージョン」をテーマに講演が行えるようにトレーニングし、独自の採点基準に基づきGOLD講師を認定しています。

認定条件

1. 「あすチャレ! メッセンジャー」講師の認定後に5回以上、通算30回以上の講演を実施していること
2. 応用トレーニングプログラム(全3回程度)の全過程を受講すること
3. 「ダイバーシティ&インクルージョン」をテーマに、修了講演で既定の採点基準を満たすこと

PRESENTATION 5 STRUCTURES

スピーチトレーニングでは、5つの構成要素をポイントにトレーニングを行っています。

1. **オープニング** 挨拶、自己紹介、導入テーマで、聴衆との距離を近づける。
2. **主題** 伝えたいメッセージの主題を明確に宣言。
3. **サブメッセージ** 主題の根拠を主に3つのサブメッセージ+エピソードで説明。
4. **まとめ** メッセージを要約し、定着を図る。
5. **結論** 聴衆に講演内容をリマインド。

共同開発者メッセージ【アクセンチュア株式会社】

アクセンチュア株式会社では、“Skills to Succeed”という共通テーマで社会貢献活動を推進し、Inclusion & Diversityの社会促進に寄与したいと考えています。本プロジェクトでは、パラアスリートの皆さんがお持ちのメッセージ力を最大限に活かすことを目指し、「自己発信能力(話す力)の向上」「聞き手にわかりやすくメッセージを伝えること」「他者の意識や行動に影響を与えること」を目的としてプログラムを設計しました。アスリートが様々な形でキャリアを形成するお手伝いをしながら、皆様と一体となってより良い社会づくりに貢献していきたいと考えています。



トレーニングの様子



リハーサルの様子



修了講演の様子

共生社会やパラスポーツの魅力など多彩なテーマに対応可能、パラスポーツの第一線でキャリアを積んだ多様な講師陣から選択できます。講演を通じて、仕事でも日常生活でも共生社会へのアンテナが立ち視野が広がります。また、道徳や総合的な学習の時間など、学校の授業での活用実績も豊富です。

講演実施例

企業・自治体(大人向け)

主なテーマ

- ・ダイバーシティ&インクルージョン
- ・働き方
- ・パラスポーツの魅力
- ・SDGs
- ・メンタルタフネス
- ・人権

講演タイトル

- ・『ポジティブシンキングの力』
- ・『仕事、スポーツの両立』
- ・『私の思うダイバーシティ』
- ・『心のバリアフリー、その先へ』
- ・『当たり前を疑ってみる』
- 他多数

利用シーン

社内研修

新人・若手・管理職
向け研修の一環で。

シンポジウム・
フォーラム

ダイバーシティ&
インクルージョンに
向けた社会づくりに。

人権週間

地域コミュニティ内の
心のバリアフリー
推進に。

教育機関(子ども向け)

主なテーマ

- ・夢
- ・あきらめないことの大切さ
- ・目標
- ・パラスポーツの魅力
- ・共生社会
- ・障がい者理解

講演タイトル

- ・『パラスポーツを通じて得たもの』
- ・『夢を目標に変える』
- ・『見えない世界から見えたもの』
- ・『聴こえない世界を知る』
- ・『不自由だけど不幸ではない』
- 他多数

利用シーン

大会観戦・応援に
向けて

パラアスリートを
より身近に感じる
きっかけに。

合宿・研修

修学旅行の
テーマ別研修に。

道徳の時間など

子どもたちの
共生社会への
気づきに。



04

CHANGE!

実際に聴講していただいた方たちから
考え方や価値観が変わった!という声
を数多くいただきました。

「障がい者にとっての障がいは、社会や
人が作り出すものであり、私たち次第で無くすこと
ができる」という考えに感銘を受けました。障がい者
への対応は、障がいを勉強して対応を学ぶことが最
重要と考えていましたが、まず障がい者の気持ちを
尊重することが大事だと気づき、講師の非常に
ポジティブな思考に勇気をもらいました。

講演企画
担当者(企業)

障がいがあっても工夫することで他の
人と同じように過ごせる、スポーツなど
も楽しめることを知りました。自分のど
んなところも認めることで、自分をさら
に高められるのかなと思いました。

小学生

講師がとても親身に話をしてくれたおかげで、
児童、教職員全員が惹きこまれていました。
パラアスリートのパフォーマンスを見て、その超人的な
パワーに驚いてました。聞いていた全員が講師のファン
になったと思います。また、学校で唯一の障がい
を持つ児童も、他の児童と同じように体験をして、
とても楽しそうにしていたのが印象的でした!

教員

「私は、社会の環境を整えること
で、障がいは無くせる」という考
え方に驚かされました。今まで、障がい
を持っている当事者にしか目を向けたこと
がなく、周りに原因があるという視点がな
かったからです。でも言われてみると、私
の周りの環境も、障がいのある人
に対する配慮が欠けている気が
しました。

高校生

最近、多様性という言葉をよく耳に
しますが、イメージがわからなかった
ものを具体的にイメージをすることができま
した。仕事をする上でもプライベートでも、障
がいをお持ちの方に対する意識が変わりま
した。パラスポーツにそこまで興味を持って
いませんでしたが、話を聞いて実際に
観に行きたくなりました!

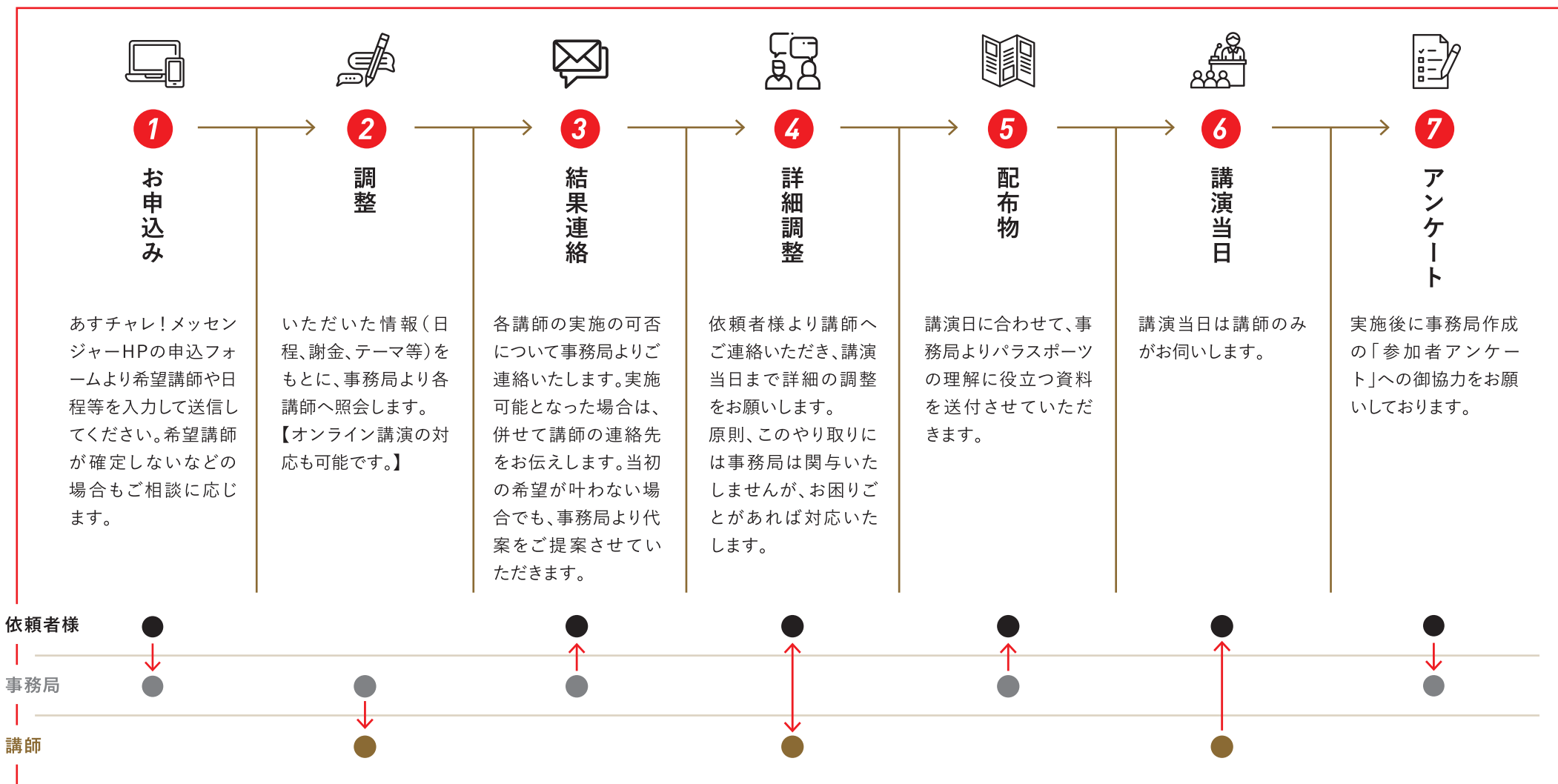
20代会社員

参加者のほとんどが講師の話に感
銘を受け、所属での共生社会づくり
への取組を進めていく意識が高まっ
たように思えました。とある参加者
は、早速新たなプロジェクトを始める
ために講師と相談をしていました。

講演企画担当者(自治体)

他の研修プログラムに比べて、
特に職員の満足度が高いものとな
りました。アンケートでは、職場での
障がい者への対応に前向きな声が
多かったです。何回聞いても新しい
価値観に出会ったり、新たな気づき
があるので、いろいろな講師の話
を聞いた方が効果が高まると思います。
ぜひリピートしたい!

福祉職員



団体概要

団体名 公益財団法人 日本財団パラスポーツサポートセンター
所在地 〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル4階
設立 2015年5月15日

URL <https://www.parasapo.or.jp/>
E-mail info@parasapo.tokyo

